



2011  
11/5(土)  
10:00~12:30

第23回岐阜シンポジウム

入場無料・申込不要

宇宙の歴史を読み解く

場所・岐阜大学講堂



GIFU UNIVERSITY

# 第23回岐阜シンポジウム 「宇宙の歴史を読み解く」

日時

平成23年11月5日(土) 開演10:00(受付開始9:30) 「岐大祭同時開催」

場所

岐阜大学講堂(収容400席) 岐阜市柳戸1-1(岐阜大学図書館1F)

主催

岐阜大学教育学部

後援

(独)宇宙航空研究開発機構(JAXA)、日本最古の石博物館、  
岐阜県、岐阜市、岐阜県教育委員会、岐阜市教育委員会

内容

川上 紳一 教授(岐阜大学教育学部)  
「宇宙の歴史と生命」

入場無料  
申込不要

(ただし、団体での参加の場合は)  
ご連絡願います

この広大な宇宙に地球外生命はいるのでしょうか。いるとしたらどこを探せばいいのでしょうか。生命が生息している天体としては、地球以外にはまだ知られていません。宇宙の誕生から太陽系形成を経て、現在の地球環境がどのように成立したのかをたどります。太陽系のロゼッタストーンともいえるアエンデ隕石、地球凍結の証拠であるキャップカーボネート、酸素をもたらした光合成生物の化石ストロマトライトなどを紹介しながら、地球史の謎解きに迫ります。

宮坂 武志 准教授(岐阜大学工学部)

「「はやぶさ」による小惑星探査を可能にした宇宙技術とは」

2010年6月、7年の宇宙の旅を終え、はやぶさが小惑星イトカワから帰還しました。小惑星へ探査機を送るために、新しいロケットエンジンであるプラズマロケットエンジンの一つ「イオンエンジン」の開発がありました。JAXAとのイオンエンジンの共同研究などプラズマロケットについて研究開発を行っている研究者が、これからの宇宙探査や利用に向けたプラズマロケットエンジン開発の重要性について語ります。

【特別講演】

藤村 彰夫 参与((独)宇宙航空研究開発機構 宇宙科学研究所)

「「はやぶさ」のカプセルにはいったもの」

「はやぶさ」が持ち帰ったカプセルには、何がはいっていたのか。未知の小惑星イトカワからどのようにして岩石を持ち帰るのか。このプロジェクトの立ち上げ段階から深く関わってきた研究者が、地球外物質を手にするまでの経緯、地球外物質の探査の意義、カプセルのなかの微粒子の回収や分析など、研究現場の緊張感、熱気や感動を伝えます。

この他、会場には、はやぶさが持ち帰ったサンプル・コンテナのほか、アエンデ隕石、月や火星隕石、ベスタ起源隕石、ストロマトライトや氷河堆積物などを展示します。また、来場者に抽選で、小惑星のかけらをプレゼントします。

## アクセスマップ

○バスでお越しの方

(岐阜大学・岐阜大学病院行き)  
JR岐阜駅(北口)バスロータリー9番のりば  
名鉄岐阜駅4番もしくは5番のりば

○お車でお越しの方

岐大祭期間中の土曜日及び日曜日は、岐阜大学構内の駐車場を一般開放しておりますので、直接大学までお越し下さい。



問い合わせ

岐阜大学 学術国際部 研究支援課  
TEL:058-293-2195 FAX:058-293-3209  
e-mail:gfsympo@gifu-u.ac.jp

※当日は、岐大祭も開催しております。様々な屋台が出演予定ですので、ぜひお立ち寄りください。また、午後からは、第二食堂で岐阜大学が誇る最先端の教育・研究のパネル展示も開催されますので、併せてご参加ください。



国立大学法人

岐阜大学